

「シニア女性のペット飼育に関する意識と実態調査」

ペット飼育率は全世帯平均と同水準。今年6月に施行された

「マイクロチップ装着に関する制度」についての認知度は80%超、75%が賛成派。

非飼育者の飼育意向は、ペットよりもペットロボットの方が高いことが明らかに。

女性誌部数 No.1(※1)の雑誌「ハルメク」をグループで発行する(株)ハルメクホールディングス(本社：東京都新宿区、代表取締役社長：宮澤 孝夫)のハルメク 生きかた上手研究所は、50～92歳の女性551名を対象に「シニア女性のペット飼育に関する意識と実態調査」をWEBアンケートにて実施いたしました。(※1)日本ABC協会発行社レポート36.8万部(2021年7月～12月)

【 調査サマリ 】

■シニア女性のペットの飼育率は17.4%。飼育者は「人とつながりになる」等ポジティブな意見が多い。

一方、非飼育者は年代が高いほど「最後まで面倒を見られない」ことが飼育のネックとなる

⇒犬飼育者が9.3%、猫飼育者が8.9%。ペット飼育者(犬/猫のいずれかを飼育している人)は17.4%。

⇒ペット飼育者がペットと暮らして良かったことは、「夫婦の間に入って来て会話の中心になる」「人とつながりもできる」「持病があるのに頑張って生きている姿を自分に置き換えている」「人間としてのやさしさが身についたと思う」「自堕落にならずに済む」などの意見があがる。

⇒ペット非飼育者が飼っていない理由は、「旅行や外出がしづらくなる」「毎日の世話が大変」「別れがづらい」。

「最後まで面倒を見られないかもしれない」は年齢が高くなるほど上昇し、70代以上は37.9%で2位となる。

■マイクロチップ装着に関する制度の認知率は83.1%。賛成派が多数でありながらも装着率は3割未満

⇒非飼育者も含めたシニア女性全体では、制度への賛成が75.8%、反対が4.3%。

⇒ペット飼育者の自分のペットへの装着率は29.2%。「これから装着したい」が7.3%、「迷っている」が22.9%、「装着意向はない・分からない」が40.7%で、自身のペットへの装着には消極的。

⇒賛成派の理由としては、「災害時や迷子などいざという時に安心」「最後まで飼うことが当たり前になればよい」など。一方、反対派は、「健康に害がないのか心配」などペットの体への影響を心配することに加えて、「人間の奢りだと思う」「生き物にとって不自然」などの意見も。

■非飼育者を含めたシニア女性全体の32.7%がSNSでペット動画を視聴。非飼育者は、犬/猫よりも、ペットロボットの飼育意向が高い

⇒「SNSでペット動画」を見る人は、ペット飼育者で50.0%、非飼育者で29.0%。

⇒ペット非飼育者の今後の飼育意向は24.2%。年代が高くなるほど意向は低下し、70代以上では12.9%となる。ペットロボットの利用意向は、非飼育者で31.2%となり、ペット飼育意向よりも高い。

【調査背景】

ハルメク 生きかた上手研究所は、シニアのインサイトについて調査・分析を行っています。近年のコロナ禍の影響により、ペットを飼育し始める人が増えるなどの変化が起きています。また、本年6月より、犬と猫のマイクロチップ情報登録制度が施行されました。シニア女性はペットの飼育に対してどのような意識を持っているのかを明らかにするために、「シニア女性のペット飼育に関する意識と実態調査」を実施いたしました。
※調査主体の(株)ハルメクホールディングス ハルメク 生きかた上手研究所 所長への取材、コメント提供も可能です。

【調査概要】

調査の方法：WEBアンケート

調査の対象：50～92歳の女性

有効回答数：551名(犬/猫の非飼育者を含む)

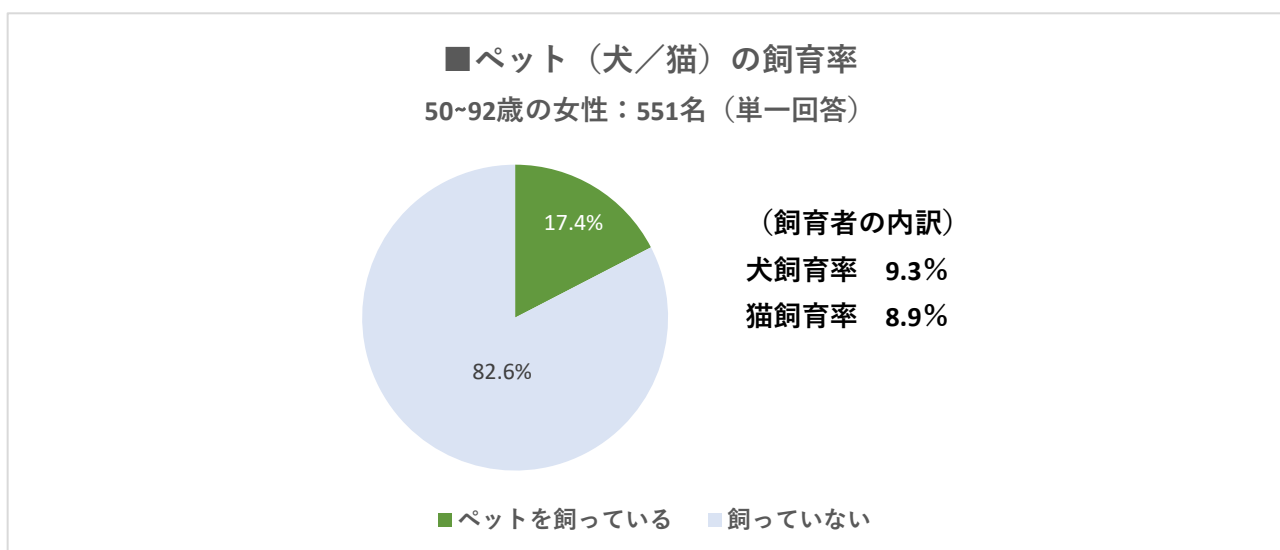
調査実施日：2022年7月15日～7月19日

調査主体：(株)ハルメクホールディングス ハルメク 生きかた上手研究所

※本リリース内容を掲載いただく際は、出典「ハルメク 生きかた上手研究所調べ」と明記をお願いいたします。

**ペットの飼育率は17.4%。
年代が高いほど「最後まで面倒を見られない」ことが飼育のネックとなる**

- ・ペット飼育者（犬／猫のいずれかを飼育している人）は17.4%。犬が9.3%、猫が8.9%で、一般社団法人「ペットフード協会」実施の「2021年全国犬猫飼育実態調査」の世帯飼育率（犬：9.78%、猫：8.94%）と同水準となる。
- ・ペット飼育者が、ペットと暮らして良かったと思うことは、「夫婦の間に入って来て会話の中心になる」「人とのつながりもできる」「持病があるのに頑張って生きている姿を見ると、その姿を自分に置き換えている」「人間としてのやさしさが身についたと思う」「自堕落にならずに済む」などの意見があがる。
- ・ペット非飼育者が、飼っていない理由は、「旅行や外出がしづらくなる（44.0%）」「毎日の世話が大変（36.9%）」「別れが辛い（29.2%）」。しかし年齢が高くなるにつれて、「最後まで面倒を見られないかもしれない」が上昇し、70代以上は37.9%で2位となる。また、50代は「お金がかかる」「今の住宅では飼えない」も上位となる。



■ペットと暮らして良かったと思うこと（自由回答より抜粋）（ペット飼育者のみ）
50~92歳の女性のうちペット飼育者：96名

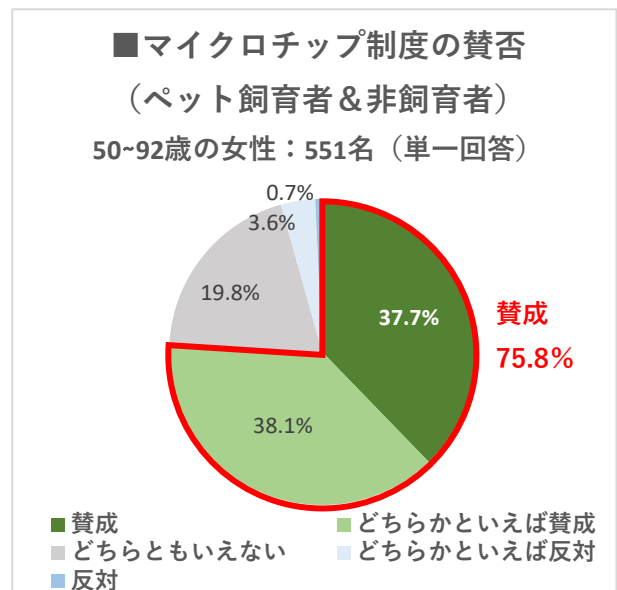
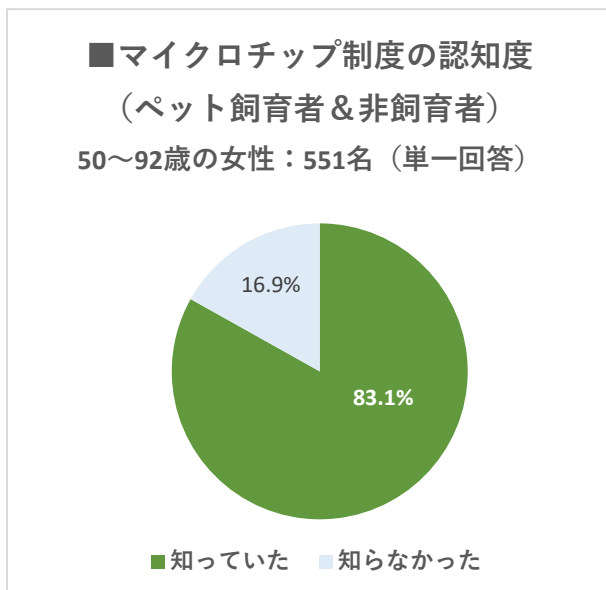
記述内容の一例
・夫婦の間に入って来て会話の中心になるので、とても助かります。（54歳・犬飼育者）
・毎日が楽しい。ペットがいるから外にでて散歩し人との繋がりもある。（63歳・犬飼育者）
・持病があるのに頑張って生きている姿を見ていると、頑張れと応援したくなる。その姿を自分に置き換えている。（72歳・猫飼育者）
・旅行などの時は色々大変ですが、人間としてのやさしさが身についたと思う。（77歳・猫飼育者）
・世話をしなくてはならないので、体を動かせること、愛情をかけられること。（65歳・犬飼育者）
・癒されている。面倒でもトイレの片づけや食事をあげなくてはいけないので、ダラダラとしていられないので、自堕落にならずに済む。（65歳・猫飼育者）
・生きる希望を与えてくれる。心の奥から愛おしいという気持ちがわいてくると幸せを感じる。（66歳・犬飼育者）
・寛容になった。1日1回以上笑うようになった。寄り道せず帰宅することが多くなり、無駄遣いが減った。（58歳・猫飼育者）

■ペットを飼育していない理由（ペット非飼育者のみ）
50~92歳の女性うちペット非飼育者：455名（複数回答）

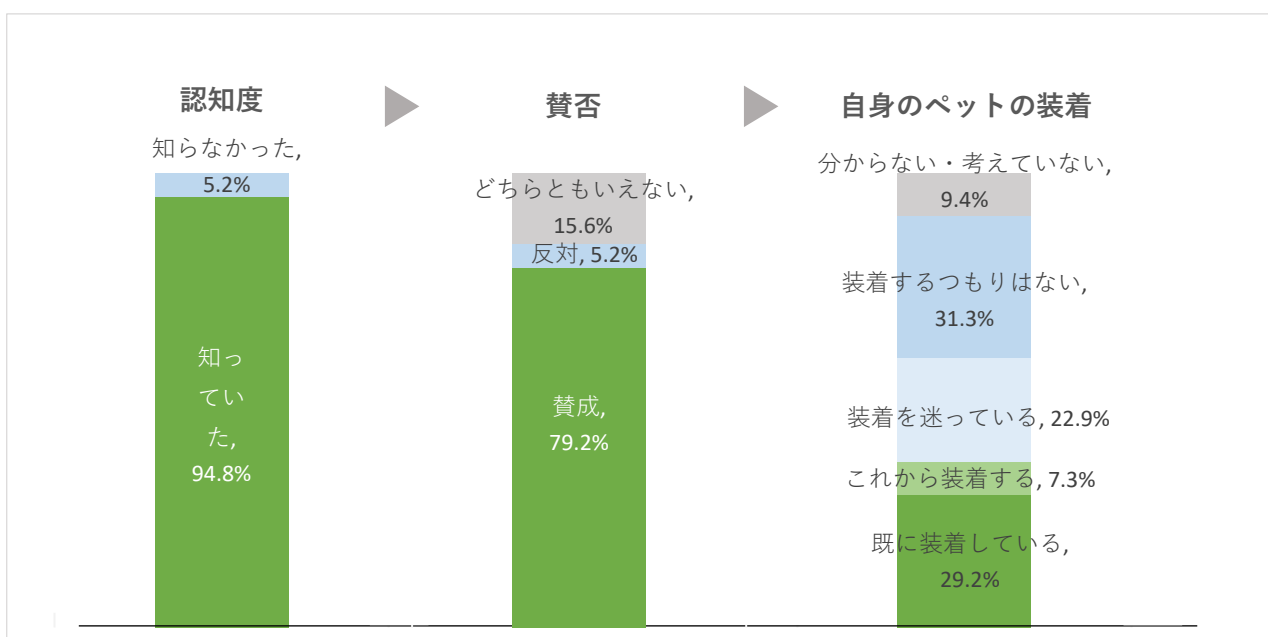
	非飼育者全体 (455名)	50代 (99名)	60代 (232名)	70代以上 (124名)
1位	旅行や外出がしづらくなるから (44.0%)	旅行や外出がしづらくなるから (40.4%) ※同率1位	旅行や外出がしづらくなるから (43.5%)	旅行や外出がしづらくなるから (47.6%)
2位	毎日の世話が大変だから (36.9%)	毎日の世話が大変だから (40.4%) ※同率1位	毎日の世話が大変だから (37.5%)	最後まで自分が面倒をみられないかもしれないから (37.9%)
3位	別れがづらいから (29.2%)	別れがづらいから (37.4%)	別れがづらいから (28.9%)	毎日の世話が大変だから (33.1%)
4位	最後まで自分が面倒をみられないかもしれないから (27.9%)	お金がかかるから (26.3%)	最後まで自分が面倒をみられないかもしれないから (28.4%)	別れがづらいから (23.4%)
5位	今の住宅では飼えないから (16.7%)	今の住宅では飼えないから (23.2%)	以前飼っていたペットを亡くした悲しみが癒えないから (15.9%)	犬や猫が好きではないから (16.9%)

**マイクロチップ装着に関する制度の認知率は 83.1%。
賛成派が多数でありながらも装着率は 3 割未満**

- ・今年 6 月に施行された「犬と猫のマイクロチップ情報登録制度」についての認知度は、非飼育者も含めたシニア女性全体で 83.1%を占め、ペット飼育者では 94.8%に達する。
- ・制度への賛否についても、シニア女性全体で賛成が 75.8%、反対が 4.3%となり、賛成多数となる。
- ・ペット飼育者については、自身のペットへの装着率は 29.2%。「これから装着したい」が 7.3%、「迷っている」が 22.9%、「装着意向はない・分からない」が 40.7%で、自身のペットへの装着には消極的。
- ・賛成派の理由としては、「災害時や迷子などいざという時に安心」「最後まで飼うことが当たり前になればよい」など。一方、反対派は、「健康に害がないのか心配」などペットの体への影響を心配することに加えて、「人間の奢りだと思う」「生き物にとって不自然」などの意見も。



**■ペット飼育者のマイクロチップ制度の認知度・賛否・自身のペットの装着について
(ペット飼育者のみ)**
50~92歳の女性うちペット飼育者：96名（単一回答）



■マイクロチップに関する意見（自由回答より抜粋）（ペット飼育者&非飼育者）
50～92歳の女性：551名

賛成派の意見

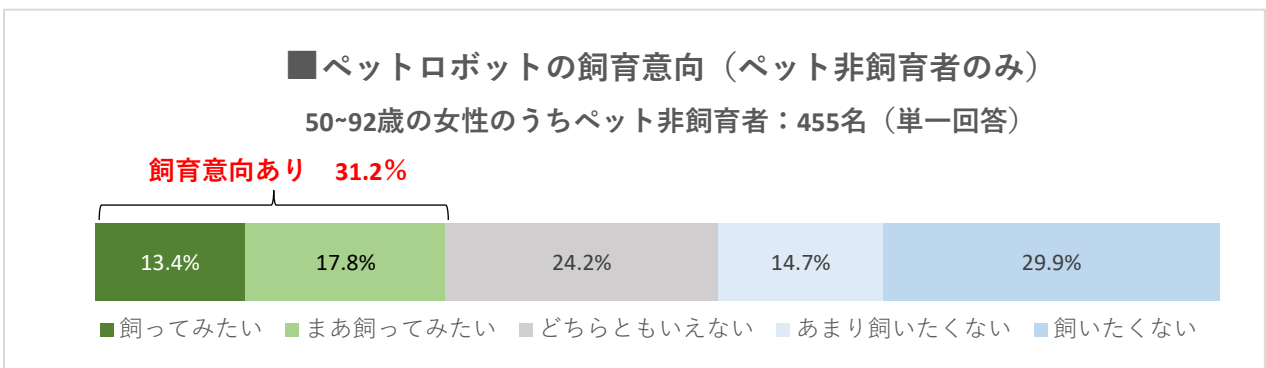
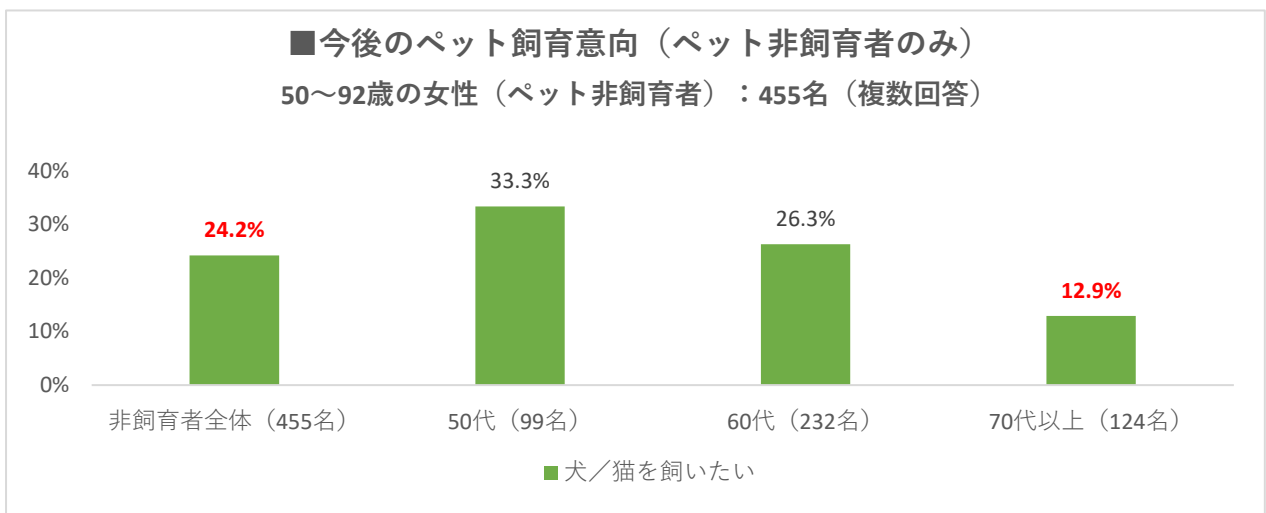
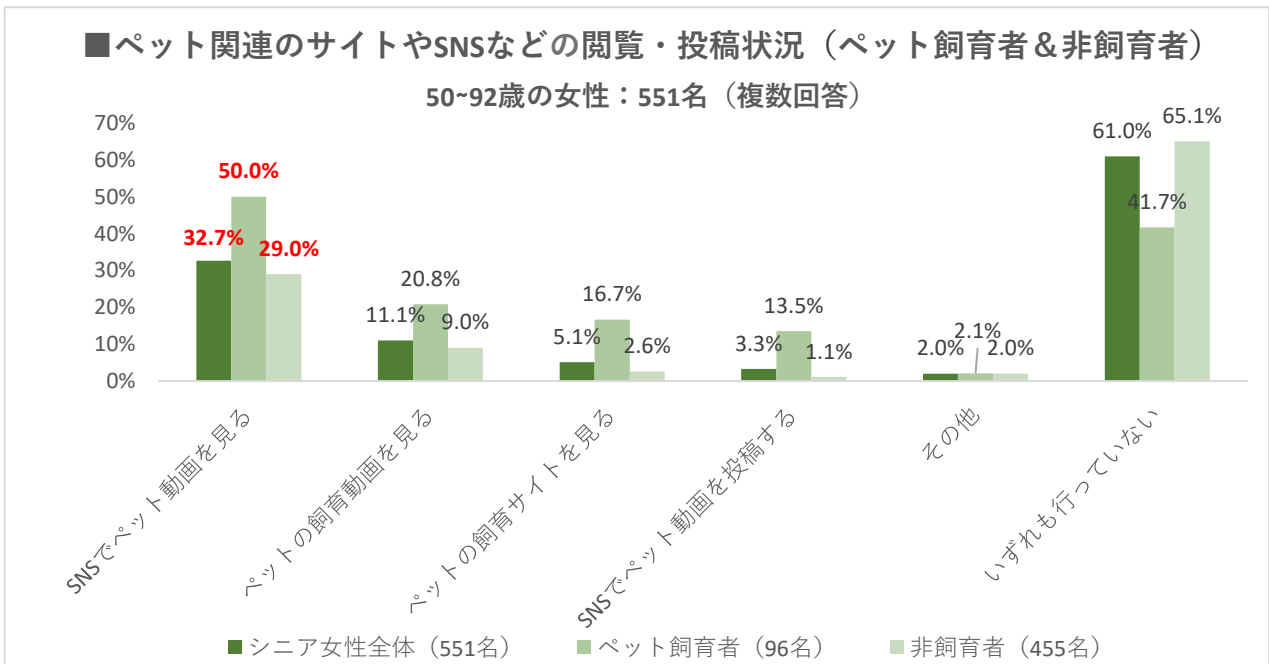
概要	記述内容の一例
災害時や迷子などいざという時に安心	<ul style="list-style-type: none"> ・万が一外出先や自然災害で愛犬を見失ったとしたときは早くに見つけることもできるだろうし、装着の方が安心できると思う。(61歳・犬飼育者) ・かつて、飼っていた猫が行方不明になり、とうとう見つかりませんでした。それを機に、装着に賛成です。(72歳・猫飼育者)
責任をもって飼う社会になることを期待	<ul style="list-style-type: none"> ・迷子になったときに役立つし、簡単に捨てられず、無責任な人が減ると思う。(64歳・猫飼育者) ・義務化により、飼う側、販売する側が責任を持ち、最後まで家族として飼うことが当たり前となるのであれば賛成です。(54歳・犬飼育者)
賛成だが、自分のペットには抵抗がある	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットが行方不明になったときには、探し出す手がかりになるのはありがたい。ただ、愛犬は高齢なので、いまから体内に異物を入れるのは抵抗がある。(55歳・犬飼育者) ・私は賛成だが、可愛そうだと夫が反対している。(59歳・猫飼育者) ・まだ情報が少なく、費用や痛みがあるのかなどがわからない。(58歳・犬飼育者)
情報の更新が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・我が家はチップを埋め込んだときから住所が変わっている。細やかな部分のインフォメーションが不足していると感じる。結果、宙に浮いた情報に溢れるのではないかとと思う。(54歳・犬飼育者)

反対派の意見

ペットの体の負担が心配	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロチップを装着することで健康に害がないのか心配 (59歳・猫飼育者) ・動物への負荷がかかりすぎるのではと思う (62歳・非飼育者)
かわいそう	<ul style="list-style-type: none"> ・なんとなく可愛そうな気がする (61歳・非飼育者) ・私が入れられたくないから、同じく入れさせたくない (54歳・犬飼育者)
人間の都合だと思う	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットといえど一つの人格だから、人間都合で従属物のような扱いは許されないとと思う。(66歳・非飼育者) ・人間の奢りである気がする。(62歳・非飼育者) ・生き物にとっては不自然なことだと思うから。(53歳・非飼育者)

**非飼育者を含めたシニア女性全体の32.7%がSNSでペット動画を視聴。
非飼育者は、犬／猫よりも、ペットロボットの飼育意向が高い**

- ・「SNSでペット動画」を見る人は、ペット飼育者で50.0%、非飼育者で29.0%。
- ・ペット非飼育者の今後の飼育意向（犬／猫のいずれかを飼育したい割合）は24.2%。年代が高くなるほど意向は低下し、70代以上では12.9%となる。ペットロボットの利用意向は、非飼育者で31.2%となり、犬や猫のペット飼育意向（24.2%）よりも高い。



【専門家の見解】

ハルメク 生きかた上手研究所 所長 梅津 順江（うめづ ゆきえ）

2016年3月から現職。主に年間約900人のシニアを対象にインタビューや取材、ワークショップを実施



ペットが「メタ認知」を高めるきっかけに。非飼育者のロボット市場に機会あり

6月1日から犬・猫へのマイクロチップ装着の義務化がスタートしました。シニアの認知率は8割を超え、装着への賛成が75.8%（反対4.3%）であったのに対し、装着率が29.2%、今後も装着するつもりはないが31.3%でした。「総論賛成・各論反対（消極的）」という矛盾した結果です。自由記述を読むと、この矛盾がひも解けます。制度・装着に賛成した人は「無責任な人が減る」など飼い手（人間）視点で、反対した人は「可愛そう」「健康に害はないのか心配」など飼われる側（犬猫）視点で語っていました。主語が異なるので見方も変わり、背反する回答になったというわけです。有用性を理解しつつも、愛犬・愛猫への装着はしばらく二の足を踏むことになりそうです。

50代以上女性のペット飼育事情はどうでしょうか。飼育率（全体）は17.4%で、犬が9.3%、猫が8.9%でした。ペットフード協会「2021年全国犬猫飼育実態調査」によると、犬が9.78%、猫が8.94%。全世帯平均と同水準ということになります。興味深いのは飼育者の「持病があるのに生きていく姿を自分に置き換えている」「人としてのやさしさが身についた」「自堕落にならずに済む」などのコメント。ペットに自分の人生後半を投影させたり、性格・生活を客観的に見つめたりしています。癒しや心の支えだけでなく、ペットの存在が「メタ認知」を高めるきっかけとなっていたのです。年代別にみると、50、60代より70代以上の非飼育者が「最後まで面倒をみきれない」「今後も飼育したくない」の割合が高い傾向でした。そして、非飼育者のペットロボットの利用意向率は31.2%。決して少なくはない数字です。シニア女性に刺激やうるおいを与え、「メタ認知」を高める役割をロボットが担えれば、ペット代わりになる可能性がありそうです。特に、ペットを飼っていない女性に、市場機会の兆しがみえています。

■女性誌部数 No.1！ 50代からの生きかた・暮らしかた応援雑誌「ハルメク」

50代からの女性が前向きに明るく生きるための価値ある情報をお届けしています。健康、料理、おしゃれ、お金、著名人のインタビューなど、幅広い情報が満載です。また、雑誌「ハルメク」の定期購読者には、本誌とともに提供するカタログと、オンラインでの通信販売を行っています。販売している商材は、ファッション・インナー・コスメ・美容・健康など多岐にわたり、独自のシンクタンクである「ハルメク 生きかた上手研究所」を通じて利用者の声を徹底的に調査、反映した商品開発で、多くの女性から支持を得ています。



■ハルメク 生きかた上手研究所のシニアリサーチデータは、「ハルメク シニアマーケティングLAB」で掲載しています。

「ハルメク シニアマーケティングLAB」は、ハルメク世代（シニア）を顧客とする企業にとって有益な情報をお届けしている情報サイトです。ハルメクグループが提供する定期購読誌や通販等を通じて得たマーケティングデータや記事、シンクタンク「ハルメク 生きかた上手研究所」の調査レポートなど豊富な情報が満載です。